



琉球大学大学院地域共創研究科 (R4改組予定)

大学院改組の趣旨・必要性

- ・人文社会科学研究科(入学定員45名)と観光科学研究科(入学定員6名)の定員充足率の低下(5割未満)に伴い、**社会的ニーズに**応答して、**地域が求める人材を養成**する大学院へと抜本的な見直し
- ・**地域に貢献する人材を輩出する**責務を果たすため、未来社会の共創に向けて養成する人材像を再定義
- ・持続可能な社会の形成や地域が直面する社会的課題の解決に直接的に貢献できる人材を養成する**5つのプログラムを設置**
- ・H30に改組した基礎学部(人文社会学部及び国際地域創造学部)との連続性に配慮した教育課程の編成

【現行】

人文社会科学研究科【45名】

総合社会システム専攻 17名

人間科学専攻 16名

国際言語文化専攻 12名

観光科学研究科【6名】

観光科学専攻 6名

教育学研究科

【再編後】5つの地域課題に

地域の社会的特色に鑑みた法・政治・社会・福祉等の公共システムにおける課題

地域経済の特色を生かした産業振興のあり方に関する課題

人間主体の表現と論理的かつ円滑なコミュニケーションの実践に関する課題

琉球・沖縄を含む地域社会の地理、歴史、文化の継承と振興に関する課題

地域の人々の心身の健康維持に関する課題

地域共創研究科 地域共創専攻【35名】

公共社会プログラム

経済経営プログラム

言語表象プログラム

文化・環境プログラム

臨床心理プログラム

持続可能な未来社会に貢献する人材

養成する人材像

- (1) 現代の地域社会及びグローバル社会の直面する多様な課題を俯瞰的に理解できる高度専門職業人
- (2) 地域が今日直面する課題を解決するための具体的な方法を、それぞれが立脚する専門的見地から究明し、その解決に向けて主体的に思考し、行動できる実践力を有する高度専門職業人
- (3) 高い研究倫理観を有する高度専門職業人

特色ある教育

必修の専攻共通科目として、「沖縄・島嶼」、「観光・交流」、「SDGs」、「研究リテラシー」の社会的課題をテーマとした「学際融合科目」4科目を設置

必修の専攻基礎科目として、学生の所属するプログラムの科目のほか、他プログラムからも1科目以上履修するカリキュラムとすることにより、研究科のミッションに沿った学びの視野を広げることが可能

各プログラム内の全科目群から必要単位を修めることにより、各課題に対応する学問分野横断的な学びを体系的に実現

琉球大学大学院地域共創研究科

〈ミッションの概要〉

地域共創研究科では、他地域にない沖縄の地域としての特性を、「実践的かつ普遍的な知」を学術的に深化させる教育の資源として活用しつつ、人文社会科学が応答すべき社会的課題に則した教育課程を通して、持続可能な未来社会の共創に貢献する高度な専門職業人を養成する。

〈主な特徴〉

1. 地域の社会課題に学際的に対応した、5つの学位プログラム

人文社会科学系の多岐にわたる学問分野を、以下の5つの社会課題に即してまとめなおした。

- 1) 地域の社会的特色に鑑みた法・政治・社会・福祉等の公共システムにおける課題
- 2) 地域経済の特色を生かした産業振興のあり方に関する課題
- 3) 人間主体の表現と論理的かつ円滑なコミュニケーションの実践に関する課題
- 4) 琉球・沖縄を含む地域社会の地理、歴史、文化の継承と振興に関する課題
- 5) 地域の人々の心身の健康維持・向上に関する課題

それぞれ、下記の学位を修得できるプログラムとして提供する。

- 1) 修士（公共社会）＝公共社会プログラム
- 2) 修士（経済経営）＝経済経営プログラム
- 3) 修士（言語表象）＝言語表象プログラム
- 4) 修士（文化・環境）＝文化・環境プログラム
- 5) 修士（臨床心理）＝臨床心理プログラム

例えば「公共社会プログラム」に所属する学生は、政治学・平和学、法学、社会学・社会福祉学という、従来であれば異なる専門分野として提供していた科目を学際的に履修し、現実の社会課題に対応する研究に取り組むことができる。

2. (学術論文ではなく)特定の課題の解決策考案をもって学位を取得できるコースも拡充

同じ学位に対して、以下の2つのコースを設置する（臨床心理プログラムを除く）。

- 1) 修士論文コース

2) 特定課題コース

1)の学生は、修士論文の審査を経て学位を取得する。修士論文は概して、研究対象の事実解明に基づきながら、広く一般化する学術的議論を行うことが必要となる。

2)の学生は、リサーチペーパーの審査を経て学位を取得する。リサーチペーパーは概して、学際的な学びに基づきながら、個別具体的な社会課題の実践的な解決策に直接結びつく提言等を行うことが必要となる。

1)と2)では、入試が異なる。つまり志願者は出願時点で、1)か2)かを選択しなければならない。

1)と2)では、修了に必要な単位数が異なる。1)の学生は合計30単位以上の履修が修了要件だが、2)の学生は合計36単位以上の履修が要件となる。

2)については、すべての研究指導教員が対応しているわけではない。指導教員ごとに、対応している場合と対応していない場合とがある。これについては志願者から、出願前の事前相談時に、当該教員に確認していただく。

3. 沖縄の大学院ならではの共通科目の提供、ならびに共学の促進

全学生の必修科目として、以下の4つの科目を提供する。

- 1) 研究リテラシー
- 2) 島嶼・沖縄と地域共創
- 3) 観光・交流と地域共創
- 4) SDGsと地域共創

これらは、人文社会科学系のどの研究においても必要な基礎知識について、沖縄の有する特徴や社会課題とともに学ぶための科目である。これらの科目を、異なるプログラム・異なるコースに所属する学生とも共に学ぶことで、異分野との協働・共学も促進する。

また共学の促進については、毎年1度催す全学生参加の研究発表会も、その貴重な場となる。

4. 新たに取得可能となる予定の資格：地域公共政策士

旧来の研究科で取得可能であった専修免許資格、臨床心理士受験資格、公認心理師受験資格に加え、新たに「地域公共政策士」も取得可能にする。2022年4月の大学院開設と同時に可能となるよう、認定機構への申請作業を進めている。

「地域公共政策士」は、(一財)地域公共人材開発機構が認定する資格であり、資格獲

得者には、地域の公共的活動や政策形成をリードすることが期待されている。

本学ではこれまで、学部レベルである「初級地域公共政策士」の取得プログラムは提供してきたが、大学院レベルである「地域公共政策士」の提供は初である。沖縄県全体としても初となる見込み。

琉球大学大学院地域共創研究科

2022年度 学生募集

ここから始まる地域共創の未来

入試説明会 2021年10月6日(水) 19時～オンライン(ZOOM)で開催

※申込方法等詳細については、地域共創研究科の特設サイトにて公表します。

願書受付 >>> 【12月試験】2021年10月29日(金)～11月4日(木)
【2月試験】2022年1月5日(水)～1月11日(火)

※出願方法等の詳細については、学生募集要項が公表可能となり次第、特設サイトにて公表します。

試験 出願 資格
期日 【12月】2021年12月11日(土) ●一般選抜
【2月】2022年2月19日(土) ●社会人特別選抜
●外国人留学生特別選抜

※新型コロナウイルス感染状況等により実施形態が変更となる可能性があります。

お問合せ

琉球大学人文社会学部学務係



〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL : 098-895-8188 e-mail : hbgakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp

地域共創研究科修士課程

地域共創研究科では、他地域にない沖縄の地域としての特性を、「実践的かつ普遍的な知」を学術的に深化させる教育の資源として活用しつつ、自律的かつ持続的な未来の地域社会の共創に資するために解決すべき課題に則した教育課程を通して高度な専門職業人の人材を養成します。

- 公共社会プログラム
- 経済経営プログラム
- 言語表象プログラム
- 文化・環境プログラム
- 臨床心理プログラム

募集人員
【35名】

12月試験 >>> 20名
2月試験 >>> 15名

※臨床心理プログラム5名程度、その他のプログラム7～8名程度が目安となります。

琉球大学地域共創



詳細は特設ウェブサイトをご覧ください
<http://www.ced.u-ryukyu.ac.jp/>

